

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇北小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には、漢字などの言語に関する事項や計算などの知識・技能の定着が図れた。個人差も大きいため、「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活用していく必要がある。また、改善のみられた「主語・述語」や「敬語」に「修飾語」を加え、言葉の特徴や使い方にに関する事項への取り組みを引き続き重点的に行っていきたい。</li> <li>・理科に関する用語や概念などの理解に課題がみられたため、定着を図っていききたい。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学習課題や学習の進め方を決め、ICTを活用しながら協力したり、他者の考えを参考にしたりして自分の考えを表現する協力的な学びの場を定めた授業展開を学校全体で取り組むことができた。</li> <li>・描写や数量関係、結果といったものを基に、より妥当な考えを導き出すことに課題がみられた。国語では叙述を、算数では数量関係を整理した図等を、社会では資料等を、理科では実験結果等を視座とした自分の考えをまとめて表現する活動を重視していききたい。各教科の「見方・考え方」を働かせるための指導改善に努めていきたい。</li> </ul>

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;学習上の課題&gt;算数(数と式)での加減乗除の計算に関する正答率が低い。国語「主語と述語の関係」「敬語」に関する正答率が低い。</li> <li>&lt;指導上の課題&gt;学習者用端末を日常的に活用する環境が十分でない。児童が反復・習熟に取り組む時間が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールダッシュボードのアンケート結果等のデータを活用し、デジタルドリル等で個別最適な反復・習熟問題に取り組む場面を設定する。【毎単元末に実施】</li> <li>⇒ 自身の学習課題や学習の進め方を決める場面を設定する。【学びの指標の「学習課題をふまえて、自分が解決すること(到達目標や個人課題など)」を、自分で決めていく」の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上】</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;学習上の課題&gt;国語では、「文の構成」などの領域「書く」の正答率が低い。</li> <li>&lt;指導上の課題&gt;授業内でのICTの活用や協力的な学習場面の設定に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 単元の中でICT活用を基礎とした仲間と協力したり、仲間の考えを参考にしたりして自分の考えを表現する協力的な学習の場面を設定する。【学びの指標の「タブレットを使って、友だちといっしょに資料を作成したりコメントし合ったりしている」「自分で考えたりグループで発表したりするときタブレットを使っている」の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上】</li> </ul>

⑤ 授業改善策の達成状況	
知識・技能	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末にデジタルドリル等を活用した個別最適な反復・習熟問題に取り組む場面の設定は、8割以上で実施できた。反復・習熟問題の機会が増えたことで、同集団比較において、令和5年度の漢字や計算の正答率を上回ったと考えられる。しかし、全ての単元末での実施は、学年の実態や単元の内容、教科等によってできないことがあった。</li> <li>・学びの指標「アンケートの「学習課題をふまえて、自分が解決すること(到達目標や個人課題など)」を、自分で決めていく」の質問項目において肯定的な回答の割合が85%を超えた。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの指標「タブレットを使って、友だちといっしょに資料を作成したりコメントし合ったりしている」の質問項目において肯定的な回答の割合は、平均して約63%であった。</li> <li>・学びの指標「自分で考えたりグループで発表したりするときタブレットを使っている」の質問項目において肯定的な回答の割合は平均して約90%であった。</li> <li>・自分の考えを表現したり、友達の考えを参考にしたりする場面でICT活用が進み、より効果的な協力的な学びにつなげることができた。</li> </ul>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の主語・述語の関係を探る問題に課題がみられた。昨年度の同調査でも同内容の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。解答類型を見ると、形式的に「誰か、何が」と判断し、文中の係り方を捉えられていない。文を構成する語句が増えることさらに正答率が低下することが考えられる。</li> <li>・国語の「解答時間が足りない」という児童回答の割合が高く、無回答率が後半になると高くなる傾向がある。自己調整力や読む速さ、複数の資料から情報を選ぶなどの経験が不足していると考えられる。</li> <li>・算数では、角柱の「側面」などの用語の定義や体積等の求め方(公式)の理解、除数の計算のきまりの理解が不十分である。昨年度の同調査でも図形領域の構成要素や計算など基本的な内容の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語・算数ともに記述式の問題に課題がみられる。</li> <li>・国語の解答類型を見ると、特に複数の資料から必要な情報を見つけたり、条件に合わせて記述したりすることに課題がみられる。今後の授業で資料の文を基に、「事実」と「意見」、「感想」や「心に残ったところ」と「その理由」を区別して表現することを重視したい。</li> <li>・算数の解答類型を見ると、条件に合わせた、複数の情報から必要な情報を抜き出し、式や表、図を関連させて表現することに課題がみられる。また、2つの数量の関係についての場面(どちらの速さが速いか)に応じた比べ方を使い、表現することにも課題がある。今後の授業で答えの求め方を筋道を立てて説明する機会を重視したい。</li> </ul>

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度課題がみられた国語の「主語と述語の関係」や「敬語」に関する問題では、前年度までと比較して、正答率の上昇がみられた。引き続き、主語を明確にすることや敬語の使い方などを普段の授業や生活の中で指導していく。</li> <li>・昨年度課題がみられた算数の加減乗除の四則演算に関する類似問題では、同集団の経年と比較して、正答率の上昇がみられた。引き続き個別最適な反復・習熟問題に取り組む定着につなげたい。</li> <li>・社会では、世界における我が国の国内の位置に関する理解に課題がみられた。日本から見た方位や主な大陸や海洋の名称を地図や地球儀を活用する活動を大切にしたい。</li> <li>・理科では、用語や概念などの理解に課題がみられた。実験等を通して、正しい理解をさせ、定着へつなげていきたい。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の「読むこと」の登場人物の心情などについて、描写を基に捉えることに課題がみられた。登場人物の行動や場面の移り変わりなどと結び付けながら気持ちの変化を捉えるような授業展開を考えていきたい。</li> <li>・算数では、全国学力・学習状況調査と同様、複数の数量から必要な情報を選び立てすることに課題がみられた。数量関係を図や数直線、表などに整理し、児童が話し合ったり、説明したりする協力的な学びの機会を充実させていきたい。</li> <li>・理科の「エネルギー」や「粒子」を柱とする領域の正答率が低かった。特に、予想を確かめたり問題を解決したりするための実験方法を構想すること、実験結果からより妥当な考えを作り出すことを問う問題に課題がみられた。予想を基に実験結果の見通しをもつ機会を設定したり、実験結果を他者と共有、比較したりすることを通して、多面的で妥当な考えを児童がもてるようにしたい。</li> </ul>

③ 中間期報告			
	評価(※)	授業改善策の達成状況	中間期見直し
知識・技能	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の学習課題や学習の進め方を決める」場面を設定することが、6割程度できた。今後も継続していく。</li> <li>・学年の実態や単元の内容によって、反復・習熟問題に取り組む場面を設定することができないことがあった。</li> <li>・データの活用を進めていくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリル等のデータを把握し、個別最適な反復・習熟問題に取り組む場面を設定する。【毎単元末に実施】</li> <li>・自分の学習課題や学習の進め方を決める場面を設定する。【学びの指標アンケートの「学習課題をふまえて、自分が解決すること(到達目標や個人課題など)」を、自分で決めていく」の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上】</li> </ul>
思考・判断・表現	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と協力したり、仲間の考えを参考にしたりする協力的な学習の場面を設定することができた。</li> <li>・タブレットの使用については、学年の実態に合わせて段階的に使用している。</li> <li>・児童は、「タブレットを使って、友だちといっしょに資料を作成したりコメントし合ったりしている」「自分で考えたりグループで発表したりするときタブレットを使っている」の肯定的な回答が6割以上となっている。</li> </ul>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)